

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520415

研究課題名(和文)近代日本におけるフランス象徴主義受容に関する総合的研究

研究課題名(英文) Synthetic Study on the Reception of French Symbolism in Modern Japan

研究代表者

坂巻 康司 (SAKAMAKI, Koji)

東北大学・国際文化研究科・准教授

研究者番号：70534436

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において、近代日本文学におけるフランス象徴主義の影響について私たちは精査した。その結果、日本文学の歴史のなかで、この影響はあまりにも強大であったため、明治から昭和後期に到る100年以上のあいだ決して消滅することがなかった、ということが分かった。この事実は、近代日本におけるフランス文化の位置・状況とその意味を考えようと望むあらゆる者にとって非常に重要である。

研究成果の概要(英文)：The present study focuses on the influence of French Symbolism on modern Japanese literature. As a result of our close examination, we came to the following conclusion：French Symbolism had an enormous impact in modern history of Japanese literature, and its enduring influence never diminished for over a century from the Meiji era to the late years of the Showa period. This finding is vitally important for anyone who strives to characterize French culture in modern Japan and identify its significance.

研究分野：人文学

キーワード：フランス象徴主義 近代日本 上田敏 小林秀雄 マチネ・ポエティク 翻訳 近代詩

### 1. 研究開始当初の背景

主に比較文学研究の領域において、近代日本文学におけるフランス象徴主義受容に関する研究はこれまでも幾つかなされて来たが、これらの研究は主に文学的・美学的な部分に力点を置いていたように思われる。しかし、これからの研究に望まれるのは、時代との関わりそれは主に戦争などによって生じた政治・社会状況の劇的な変化であろうを一層重視した、より実証的な分析作業ではないかと思われる。そのような観点に立ち、本研究においては、これまでの研究成果を踏まえながら、次の段階の研究状況を開き、近代日本文学の在り方についての新たな視点を提示することを考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、近代日本文学におけるフランス象徴主義の受容の実態を総合的に解明することであった。つまり、明治・大正・昭和初期における日本文学の諸相において、フランス象徴主義文学の影響下に誕生した幾つかの日本文学作品、あるいは作家自身の行動が、近代日本文化を形成する過程でいかなる意味を持ち、いかなる役割を果たしたのかについて、特に戦争(日露～第二次世界大戦)との関わりを重視しながら、具体的かつ詳細に検討することを目指した。

そうすることにより、近代日本文化の成立過程において、極限状況の中で西洋文化が果たした役割の意味を検討すると同時に、西洋文化を受容しつつ発展してきた日本文化の根源にある要素を明らかにすることを目指した。

### 3. 研究の方法

(1) 本研究は、研究代表者と三人の研究分担者の計四人による共同作業で進めていった。ここで言う研究は研究代表者が主宰する研究会や比較文学会などの諸学会で発表し、他の関連分野の研究者の意見を仰ぎつつ、検討作業を進めていく、という形になった。

(2) 研究を進めるに当たり、研究代表者は2010年に「日仏文化交流史研究会」(事務局:東北大学国際文化研究科坂巻研究室)を立ち上げ、これをこの共同研究の基盤とした。この研究会はホームページを開設し、研究の状況を逐次公開することにした。

(3) この研究会の会合という形で、年間一、二回、研究代表者、研究分担者が東北大学、あるいは学習院大学に集い、当該の研究内容についての報告を行い、それを基に討議をするという形態を取った。内容は研究会のホームページ上で報告し、研究報告書として公開した。

(4) また、4年度目の最後には公開シンポジウムを実施し、多方面から集った聴衆と共に

討議をするということを行った。最終的にこれは書籍としてまとめられ、公刊された。

研究内容としてはおおよそ以下の4点を扱った。

#### フランス象徴主義の導入

・上田敏『海潮音』(1905年)を初めとする翻訳詩が発表された明治時代における文学界の状況の分析

#### 翻訳から実作へ

・蒲原有明『有明集』(1908年)、北原白秋『邪宗門』(1909年)と時代状況との関わりからの分析  
日露戦争との関わりから  
・永井荷風『珊瑚集』(1913年)におけるフランス象徴主義の移入状況の分析  
第一次世界大戦との関わりから

#### 日本近代詩の完成

・堀口大蔵『月下の一群』(1925年)の影響下における日本近代詩の完成(高村光太郎、萩原朔太郎、三好達治への影響)とその時代状況の分析  
戦間期との関わりから  
・中原中也とランボーの影響関係における時代的背景の分析

#### 太平洋戦争時における文学者たちの行動

・小林秀雄におけるヴァレリー受容と戦争の関連の分析  
・マチネ・ポエティック派(福永武彦、加藤周一、中村真一郎)における戦争の意味

### 4. 研究成果

このテーマの研究を進めるに当たり、公開の講演会、非公開の研究会という形で活動を進めて行った。具体的には以下のものを行った。

#### (1) 連続講演会

『魅惑と離脱のはざままで 近代日本、戦争、フランス文学』全二回  
・森本淳生(一橋大学)「意識の夢が覚めたのちにひとは戦士となるのか? 小林秀雄におけるヴァレリー受容の変遷」(於:東北大学、2011年10月24日)  
・岩津航(金沢大学)「福永武彦と象徴主義絵画」(於:東北大学、2011年12月2日)

#### (2) 公開研究会

・渋谷豊(信州大学)「野生児と海 日本におけるランボー受容」(於:学習院大学、2012年11月17日)

・杉山直樹(学習院大学)「記号の手前に/イメージの彼方に 「象徴主義」とベルクソンとの交錯をめぐって」(於:学習院大学、2013年6月15日)

#### (3) 非公開研究会

・高橋梓(東北大学専門研究員)による発表

・本多遥（東北大学博士課程）による発表（於：東北大学、2014年12月5日）

このような講演会・研究会を通して、ランボー、ヴァレリーなどによって体现されたフランス象徴主義文学の精髓が、小林秀雄、福永武彦、金子光晴といった近代日本を代表する文学者たちに受容されていく様を確認した。そのような状況に関して、研究代表者、研究分担者による研究報告書『近代日本におけるフランス象徴主義』を2013年3月に刊行し、関係者に配布した。その内容については5に詳述する。

#### （4）シンポジウム

これらの一連の研究活動をまとめるために、2015年3月14日、15日の2日間に亘り、シンポジウム『近代日本におけるフランス象徴主義 受容・模倣・創造』を学習院大学において開催した。これは本研究を幾つかのテーマに分けて分類し、各発表者による報告の後、フロアーを交えて討議するというものであった。そのプログラムは以下の通りである。

#### セッションⅠ：明治大正期における受容

・渋谷裕紀（新潟大学）「蒲原有明における象徴詩の受容 『有明集』『豹の血』を視点として」  
・堀まどか（嶺南大学）「野口米次郎における象徴主義受容」  
・大出敦（慶應義塾大学）「象徴の森のなかの詩人大使 ポール・クローデルの日本経験」

#### セッションⅡ：マチネ・ポエティックの時代

・田口亜紀（共立女子大学）「中村真一郎におけるネルヴァル」  
・西岡亜紀（東京経済大学）「福永武彦におけるボードレール 「規範」としてのフランス詩」  
・岩津航（金沢大学）「加藤周一とヴァレリーー 知性の仕事としての象徴主義」

#### 特別講演Ⅰ

・柏倉康夫（放送大学）「堀口九萬一と大學、二人のフランス詩翻訳」

#### セッションⅢ：模倣？それとも創造？

##### ボードレールの場合

・坂巻康司（東北大学）「萩原朔太郎とボードレール 感覚と声の詩学」  
・釣馨（神戸大学）「梶井基次郎とボードレール」

#### 特別講演Ⅱ

・野村喜和夫（詩人）「ランボー受容史 中原中也から私の詩作まで」

#### セッションⅣ：象徴守護の超克？

・森本淳生（一橋大学）「<球体>脱出のもうひとつの夢 小林秀雄における象徴主義の超克」

・立花史（早稲田大学）「新しき詩作 田邊元とマラルメ」

・寺本成彦（東北大学）「寺山修司におけるロートレアモン」

このシンポジウムはその後、各執筆者による加筆を経て一冊の本『近代日本とフランス象徴主義』としてまとめられ、水声社より2016年3月に刊行された。その内、研究代表者、研究分担者による論考は5に記載する。

これらの一連の研究活動を通して、近代日本におけるフランス象徴主義受容の大まかな流れを掴むことができたと言えよう。あとは個々の事例について更なる考察を続けて行くことが、近代日本文学の状況を究明するための課題であると言えるだろう。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

坂巻康司、萩原朔太郎とボードレール 感覚と声の詩学、近代日本とフランス象徴主義、査読なし、水声社、2016年、p.209-231

森本淳生、<球体>脱出のもうひとつの道 小林秀雄における象徴主義の超克、近代日本とフランス象徴主義、査読なし、水声社、2016年、p.287-309

大出敦、魂と形相 クローデルの日本経験、近代日本とフランス象徴主義、査読なし、水声社、2016年、p.69-103

寺本成彦、寺山修司におけるロートレアモン、書物からスクリーンへ、スクリーンから街へ、近代日本とフランス象徴主義、査読なし、水声社、2016年、p.346-373

坂巻康司、Une stratégie poétique: Le cas de Shuntaro Tanikawa, MODERNITES, 査読なし、第37号、2014年、p.275-283

寺本成彦、Ooka Makoto au Carrefour de la poésie traditionnelle japonaise et de la poésie occidentale. Vers la forme comme tremplin (re)créatif, MODERNITES, 査読なし、第37号、2014年、p.285-296

坂巻康司、明治・大正期日本文壇におけるマラルメ受容、近代日本におけるフランス象徴主義受容に関する総合的研究、査読なし、第1号、2013年、p.50-76

森本淳生、<ヴァレリー>の超克 <ヨーロッパ精神>と対峙する日本近代批評を映す鏡、近代日本におけるフランス象徴主義受容に関する総合的研究、査読なし、第1号、2013年、p.5-32

坂巻康司、詩人が<古典>になるとき マラルメの場合、第5回金沢大学人文

学類シンポジウムブックレット、「古典」は誰のものか 比較文学の視点から、査読なし、金沢大学人文学類、2013年、p.19-42  
大出敦、自然・カミ・〈闇〉 クローデルと日本のカミ観念、教養論叢、査読なし、第133号、2012年、p.21-47  
森本淳生、批評言語と私-小説-論 ヴァレリーから小林秀雄へ、言語社会、査読なし、第5号、2011年、p.150-169

〔学会発表〕(計 10 件)

森本淳生、Symbolisme et dépassement de la modernité : la réception de Valéry au Japon, Colloque international : Paul Valéry, 70 ans après (国際シンポジウム「ポール・ヴァレリー、70年後」), 2015年11月27日、サンジェ = ポリニャク財団 (フランス、パリ)

坂巻康司、萩原朔太郎とボードレール 感覚と声の詩学、シンポジウム「近代日本におけるフランス象徴主義 受容・模倣・創造」, 2015年3月15日、学習院大学 (東京都)

森本淳生、〈球体〉脱出のもうひとつの夢 小林秀雄における象徴主義の超克、シンポジウム「近代日本におけるフランス象徴主義 受容・模倣・創造」, 2015年3月15日、学習院大学 (東京都)

寺本成彦、寺山修司におけるロートレアモン、シンポジウム「近代日本におけるフランス象徴主義 受容・模倣・創造」, 2015年3月15日、学習院大学 (東京都)

大出敦、象徴の森のなかの詩人大使 ポール・クローデルの日本経験、シンポジウム「近代日本におけるフランス象徴主義 受容・模倣・創造」, 2015年3月14日、学習院大学 (東京都)

坂巻康司、Une stratégie poétique: Le cas de Shuntaro Tanikawa, Colloque international : Transmission et transgression des formes poétiques régulières (国際シンポジウム「定型詩の継承と逸脱」), 2013年9月8日、中央大学 (東京都)

寺本成彦、Ooka Makoto au Carrefour de la poésie traditionnelle japonaise et de la poésie occidentale. Vers la forme comme tremplin (re)créatif, Colloque international : Transmission et transgression des formes poétiques régulières (国際シンポジウム「定型詩の継承と逸脱」), 2013年9月8日、中央大学 (東京都)

坂巻康司、La réception de Mallarmé à l'ère Meiji-Tai sho au Japon, 20<sup>e</sup> Congrès de l'association de littérature comparée : Comparative Literature as a Critical Approach? (第20回国際比較文

学会「批評的アプローチとしての比較文学とは?」, 2013年7月23日、パリ第4大学 (フランス、パリ)

坂巻康司、詩人が〈古典〉になるとき マラルメの場合、第5回金沢大学人文学類シンポジウム「古典」は誰のものか 比較文学の視点から、2012年12月17日、金沢大学 (石川県)

森本淳生、意識の夢が覚めたのちにひとは戦士となるのか? 小林秀雄におけるヴァレリー受容の変遷、連続講演会「魅惑と離脱のはざままで 近代日本、戦争、フランス文学」, 2011年10月24日、東北大学 (宮城県)

〔図書〕(計 3 件)

坂巻康司編著、近代日本とフランス象徴主義、水声社、2016年、406頁

森本淳生編、〈生表象〉の近代 自伝・フィクション・学知、水声社、2015年、483頁

大出敦編著、マラルメの現在、水声社、2013年、396頁

〔その他〕

日仏文化交流史研究会の HP アドレスは以下の通り:

<http://nichibunko.web.fc2.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂巻 康司 (SAKAMAKI, Koji)  
東北大学・大学院国際文化研究科・准教授  
研究者番号: 70534436

(2) 研究分担者

寺本 成彦 (TERAMOTO, Naruhiko)  
東北大学・大学院国際文化研究科・教授  
研究者番号: 30252555

森本 淳生 (MORIMOTO, Atsuo)  
一橋大学・大学院言語社会研究科・准教授  
研究者番号: 90283861

大出 敦 (ODE, Atsushi)  
慶應義塾大学・法学部・准教授  
研究者番号: 90365461